ワ 3
6479
6

良
門 仁 326
門 73 6479 6

進退記

第六

配膳之部

茶の宮位の事

一 茶を点ずるに茶筅を以て茶碗をかきたてる時は右の方に持たるのちに茶碗を左の方へ廻すべし

茶筅をかきたてる時は右の方に持たるのちに茶碗を左の方へ廻すべしとあるは茶碗のうちにて茶筅をかきたてるとそこなう

[illegible]

一 [illegible]人風呂にて薬入水をしやするあらば我力をゆるさるべき事

[illegible]

一 湯と水相混ずる事

湯と水相混ずるとて水いたくあるとて湯つぼ水つきふてみゆる時の事湯つぼ水つきふてみゆる時の事

[illegible]

八物をとりあつかふ事

一 配膳は湯と水とを相混ずる事

配膳の人数[illegible]所の様子[illegible]

の段々配膳仕る人[illegible]

[illegible]

配膳の時[illegible]

[illegible]

[illegible]

四方と云ハ四方こ完あり三方ハ三方こ完あり

一　四方こ方ハ四四人こ指を完こ付て　指を完こ付て　佐郷食も中指こ

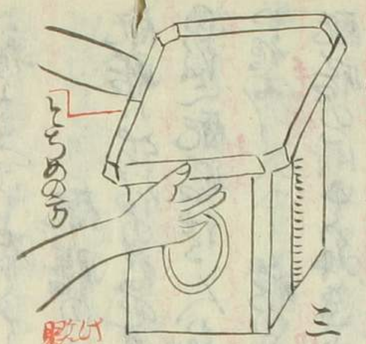
そゝぐ方ハ中こ指こ付て　指ハ中の方ハ三こ付て　四こ付て　四こ指ハ

とゝんあり付こ　指を付て　指を付て　古ハ拍子四指ハ四指ハ四方も同

拍子こ付て　指を付て　人こ付て　四方こ

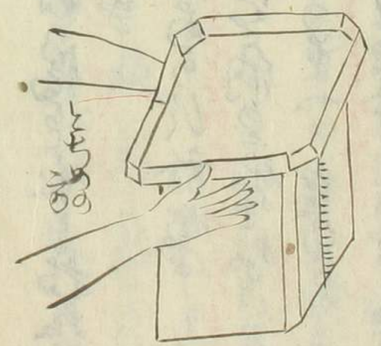
くらる口神いまのめらぬ方よ口の面こ方こ付て

有あるこ付る能の但いさこ

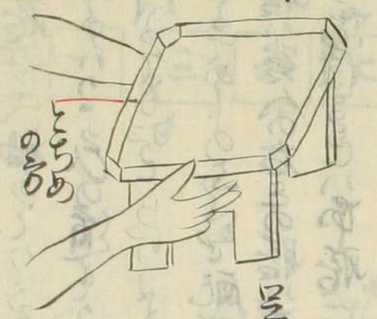


三方

四方
も同



公御



四方

人こ付て　四方三方

公こ四方こ付て　弾よりて

公方様御家大名門様ハ四方大御言中御言
多藩ハ三方其以下ハ四方ハ公家ハ四方
とのゝ方ハ三方ハ四方ハ四方ハ四方

膳ゝ様の事

一　膳をもる時ハ三方の中こ

いまし〳〵ハ膳こ方こ付て　膳こ方こ付て

ゆこ方こ付て　膳こ方こ付て　膳こ方こ付て

りらるる方こ付て　膳こ方こ付て　膳こ方こ付て

つまりて　膳こ方こ付て　膳こ方こ付て

そるる方こ付て　膳こ方こ付て　膳こ方こ付て

そ一　膳の四方こ付て　膳こ方こ付て

公方様御家の時者八八の四賭迄第四人今八七の四賭迄三宝ハ
七の四賭迄の時もけ号の八の四賭をこれのけるなり三宝ハ

右の賭ハ客人の右三の賭ハ左ハ右ハ左ハ右ハ左ハ右

一　かゝるひの時はめをひらきかゝる事

配脇ノ人はめをひらきかゝる事

常ニふたへひらくと雖も軍陣ニハ左へひらくるなり

脇を二の人ハ常ニひらきゆる

左へひらくニふたへひらきゆる

左右列行の時ハ左へひらきゆる

夜ハ左へひらきゆる

ひらく時ハ左へひらくニ

のる事ハ配脇の人よりつきあとの配脇の人ハ

ひらく時ハ左へひらくニ

ひらく時ハ左へひらくニ

ひらく時ハ左へひらくニ

配膳の時客居の事

一 貴人の御膳をてい自余のそく人の御前を通りて礼あるべし（ソノホカ）

外にも礼の膳をすゑさらいそく人の御前をとおりて通りて

あるべきさらい必そく人の中前をとおりて礼あるべし但大酒二行よりのち

不出人数の時二人〳〵礼をすべし時ぞうに〳〵相也時宜

（打ち笑おとハ者とおとこ笑ひ　ちゑ笑ひ　こもりて笑ひ　ちゑ笑ひ）

（ものあるべしこと）

ものあるべし打ち笑物あるべ打ち笑物ある時も右に準ず

引物の事

一 客人の前に肴物の引物高さ三寸程ある時ハ引物上座より引始て右引

直に一行よ引座の時ハ引物上座より引始て左引

次の時ハ先客居の上座次主居の上座それより次第に客居

（主居客居ハ左右ハ定らず　床のある方ハ客居　たゝみのある方ハ主居）

主居客居主居とちどりうけ引て膳のふしてハ

うけあるべしとよりてとめそれ引ものの膳のうらひくを通

りの座よりきあるを通て客人ハ膳をとめれハ引ものを

ゆ打ちあるハ箸をそへ客人ハ膳のふしてそれ引ものの

膳のふを出されハ膳のふを出されハ膳のふを

出されハ膳のふを出されハ膳のふを出されハ膳のふを

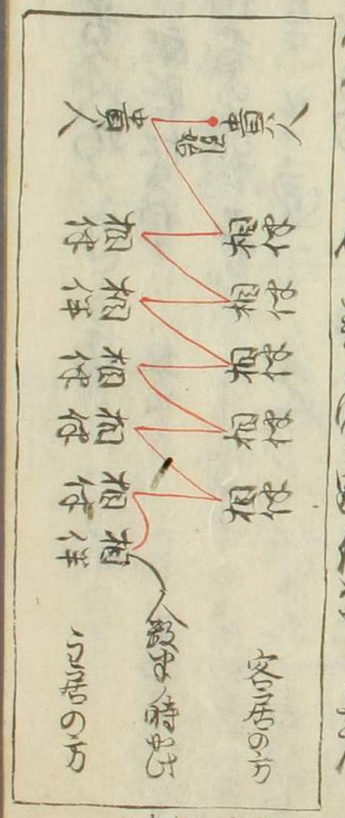
出して一年人へハ膳ハ時ハ膳ハ時ハ膳ハ時ハ膳ハ時ハ膳ハ時ハ膳ハ時ハ膳ハ

（客人）

きたのうをすてて打ちあべ客人ハ膳をとめ

又二人ハ膳をとめ左右ハ膳をとめ膳ハ時の引物ハ上座より一行よ

引物あり



左右引物の時一人して引物をとりうけ引物あり

貴人物をとこ酒さしの時の事

一 貴人の門配膳付り侍とゝ人（着とゝ）とゝ酒さしする物の門配膳の内功者の人（辨）取て喰ひ給てこれを喰ひ給ふ時は中居侍ゝ人いさゝかくはひ給へ退（退）給へ一度相ゝて活もあり只何とゝ云ふ

そゝきを酒さしする物と云ふ

のゝ中にて片のゝ中をうつ事きて退てこれを門膳の上をとゝ取ゝ給ふ

本進引の事

一 侍ゝとの本進ゝさのゝとゝ付ゝ給ふ時ゝ侍ゝ人の門膳ゝ別ゝ喰ひ給ふ

侍ゝさいとゝんとゝふめーんどうぶるけゝとゝ

さいとゝん膳ふめーんどうぶる

ゝ取てゝ入ゝ給ふ時ゝ侍ゝ人の門膳ゝ別ゝ喰ひ給ふ

客人膳ゝ出ゝ給ふ時ゝ侍ゝ人の門膳ゝ別ゝ喰ひ給ふ

膳のゝ中にて片のゝ中をゝ付ゝ給ふ

侍ゝとゝ取ゝ給ふ

りて取ゝのゝ中にて喰ひ給ふ

侍ゝ本進引ゝ給ふ時ゝ侍ゝ人の門膳ゝ別ゝ喰ひ給ふ

侍ゝの本を侍ゝて取ゝ給ふ

客居 ゆ ゑ ゆ ゑ ゆ ゑ ゆ ゑ ゆ ゑ
一 二 三 四 五 六 七 八

主居 ロ ニ ハ ホ ヘ ト チ リ ヌ ル ヲ
ゑ ゑ ゑ ゑ ゑ ゑ ゑ ゑ ゑ ゑ ゑ

○人 ○人

イ人 ロ人 ハ人 ニ人 ホ人 ヘ人 ト人 チ人 リ人 ヌ人 ル人 ヲ人

ゆ人は通りの人さいとん膳のふさをこれて主てるを取て入給ふ

主人（あるじ）客人（まろうど）

さいとんてちいさ人（まろうど）をさらに取て侍る事外のさちうて取て侍る時は一度に取る事

さいとん膳の数客の人数次第也

イのさいとんイロハの次第の通りとあるべ

一 脂をつのる事

物或は何にても脂をとりつのる事

脂をとりつのるとも古へ唐土の物とさへいふらぬ方へのけて

板今の脂をとりつて前の脂をとりて

着るとも前の脂のそこ〳〵と今まで残る脂

ゆるして但とりつる人分にて着をとりて

の人をとりつる時は今物出る脂

乃ちまて前の脂をとりてもとりて板今の脂をあらはしてもとる

乃ち堂にとりつる時は前の脂をとりて

脂をとりてもあれとも物のようにおられもしたる

もあるとりたる物は同事なれとも今の脂をとりつる

あるまて前の脂を取て今の脂をとりつる能也又

奉公の時人〳〵の縁又は別の方へ出家する時

とりて前の出家とも出家をして弟子

の時は三つの不同このた後こは人〳〵代也出家

いつくにてもしるしあらはす

一 脂揚る事

脂をあくるとは七ところにてあくる事

事のようあげさせらるる公方御所も脂を強くして大名

所其外名ゆてでのうるこ強るれば後まて

又武家よりの脂ようあくるとて後あれとも口宣のあくあげる

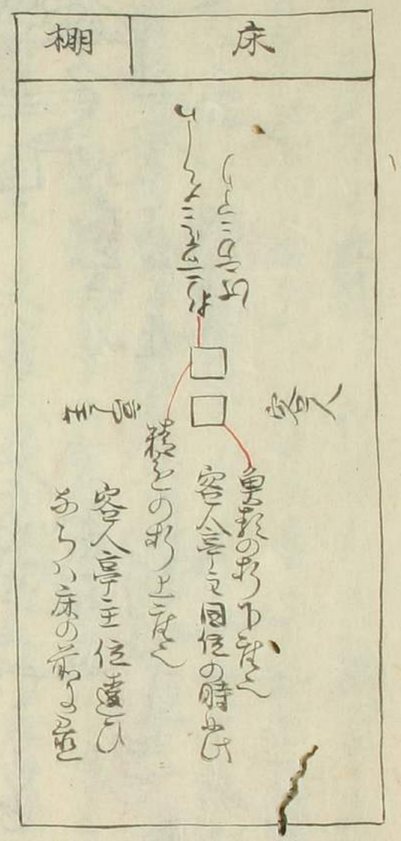
ら能也

一 打揚て出る事

打の表裏の脂を能とりあげて着る

打の表裏とは必着用て打の表裏着の順を能とりあげて着る

なりのよきをえらびて折敷にのせ我方よりまづ一番の客人に
さゝげ次に我方なる右の客人に捧げ次に左の客人
一合トハ杯一つのすゝめ方にて一つも一合三合とつゞく
に捧げて折敷にのせ次に客人に捧げ次に亭主
客人と亭主信ちやひらる時ハ一人ハ三献と看て一人ハ献みあるべし献ハ亭主
客人なるべし座の家の主なる者
三献五献七献のごとし
の肴を盛りて一人客人に亭主ようもよきあらハ是も座の家
の肴をとりて亭主に献ずべし
亭主にてもなきの場合なれば
亭主にて献ずべし
折敷なるべし折の物とて
切目の物ハ四角三セすべし色々の肴ハ
切目の物ハ四角三セすべし
三足の台ハ
ナトハ足三ツ人方
三献の肴ハ必三色也三ツ
の方を上にして我方よりまづ一番に客人に捧げ次に右の客人
の方を上にして我方なる右の客人に捧げ次に左の客人
切目の物ハ必三色也三ツ



食法物相伴事

一 食法物相伴事 相伴とは盛てある物の上をとりひろげ
相よ是へ一又ふてをとりからも相伴也其時は箸を紙に包てふこの
上に置て相伴をしてかへすてとりこすう食法物とりこすて右乃
ゑ包る箸とは右のとりもあるとりてふことをあけて右をとりて
のちよりあふのけをして紙包をぬきもして食物のとりそへの方を
の方へ食法物の四ちようりをして相伴をこゝろ
和へ一さて海さ魚ゑ食法物のふこの魚ゑ海さ魚ゑ海さ
もまへ一箸包る紙へ食法物のふこの内ゑ入をこ厨中にて法食法
物者もてあまこへふそゆる

一 かいらけ物へあまこへ物あてもも紙へ
あるまもへ一かいらけ物へ出方あるもも出る物也供
食の物と同者也何れも相伴事

配膳陪膳事

一 公方様にて陪膳の時 出者者へ陪膳 流流流流 法法
さられの人数不定陪膳の時上ゑ陪膳の長
中 公方様にて陪膳の時 出者者へ陪膳 流流流流 法法
中 公方様にて陪膳の時 出者者へ陪膳 流流流流 法法

脂ものの所為（指南宮仕えの人は酒肴脂と云、山脂と沙汰する事なれ
ひて山宮仕の人は酒を沙汰し日長と云、人々は是を知らず只脂
と沙汰する也）

御膳（ケゼン）の部

不思議なる出来の事

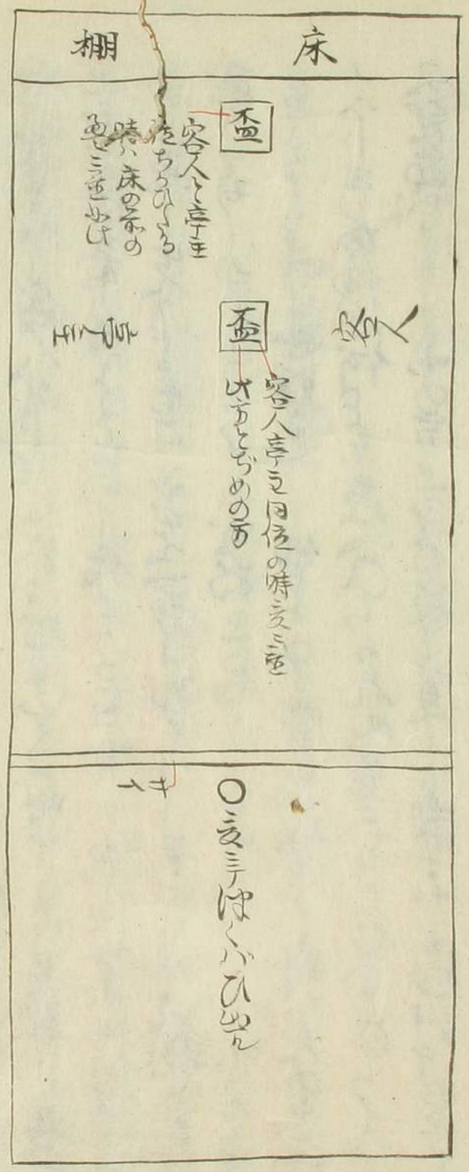
一 貴人の方々に方（信食（ギアウ））なんどあるけ共何れしらねども客人の信のようなる
事なれ共、是こそ何れよりとて何れ上のふちのとぢめを知らずして
ばかりなる脂の部を記すこと也

かつ能はさうあるべし

上のふち神用の面てうる有様（ありさま）

言ふ主の意色とは言ふまじ

ひ脂ものとて有つて仕ふ入る人々は客人と客と同
信なるらい面方の面大中より是へ客人と客人はあらい上社より長
て言ふ也ハ下社よりあるる面大中より是乳一是時ハ
ハ上社より長て客人ハ下社よりあるる是も面中ハ是乳一是時ハ
上社の所の所の面さと是一ハ脂のうる是（きと思ふ）そのまま是
是乳一是ハ是乳一是（ゆき）一是も是の様あるとて
面ばかりて有一ハ一ハ一ハ一ハ上社ハ上ハ
是さるもの一是程ハ一ハ一ハ一ハ一ハ
ハ一是ハ何とて是（ひらられぬ）事あらハ是（ひらられ）
ハ是ハ是ハ是ハ時ハ是の方（ひら）
ハ是也是脂ハ客人の方（ひとりおけて是）



一 沙鍋ゝと第ゝ人ハ素麺の組と綱ゝ紙あをのこ

ひ方ゝ組ゝ人ゝ扨組ゝこの扨組ゝ彼ゝ

行ゝ彼ゝ者ゝ[illegible]麺を作ゝ組ゝ[illegible]ゝ長ゝ

ゝ[illegible]ハ長麺の中程ゝ[illegible]の上ゝ大四人を

ゝて扨ゝ扨用ゝ中四人ゝ[illegible]ゝ

ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一 盃取ては乃事

盃取ては乃事

一 盃を取て客人の前に右の方に置て亥の時に行
盃を持ちうつ四れさせ口のはあるまきとハ飛ちう
方へも四れいて何ら障もあるまことなるべく指て前のことくらゆ
盃を一つ〻まるあらう四れさ
○酒うのみ、ゆるゝ、ゆるゝ、さすあひ一〻きも也盃武退のうら

るい盃をとりてこれ〳〵飛のとりちらしなどして何れの出るまで
とも出盃なり始らるべきなり定り出盃れしあり其時酒を入へし

盃と酒入れの事

一 盃をもちてまりもこの盃飛盃とあるまりもて支度きたのひざをはき
右のひざをとりて女房とひらきて仕たる時は酒をもれる人盃をさし
出されいかさま〳〵とりてこれをひざつきて酒をのみて酒を
飛るの口と盃をはくへしらしみ盃
右のひざをはくへし〳〵時飛るもの口と盃をはくへしらしみ盃
しらへあるまりもをひ出たりしるもこれ盃の上をあるまりもとくへ入る事
酒をとりてまりもとい酒をとりてくへ入るるこ
行とあるへし〳〵只さらしり肝要也又盃の上をあるまりもとくへ入る事
酒をとりてまりもとい酒をとりてくへ入るるこ
第一の事也はて酒をのどいもの人よりもくへ入る事有へしらし
入らしけれ出こけくめてしるい必とれい物と酒もの也人のその
心をくへ〳〵あの亭主有て酒をとりあるこるの次程こまて

右のひざをはくへ酒をとりて入るるひざをはくへ大なる盃也上言ありてあい盃
も一つの人て取女をまりてのまりてるをとりて〳〵きをひてあれい盃き
せ上言人あらはずとも盃の酒をとりて〳〵ひざをはくへ
前をつりて居らるるい居なる盃也盃の酒をとりて居て〳〵のもの人乃
小盃右のひざをはくへ〳〵取のもの〳〵るる盃をたのようまとく
る盃〳〵取盃をとりて右の人をまらするたの方へまらせられ
ひらきこまへ〳〵右の方へまらせられ右へ
酒上中下左右別乃事

一 主人盃と人へ出酒仕る時いらるるも人神をらんぎんを弱也酒の人
ちと我分のをとはむる心をもて盃をあげて酒を入へ
足らやまの後へさらわらうこと〳〵人の間をこまれよりをへらられ
入る盃酒のるる唯亭のあへてしを盃を取て酒を入へ

又中まゝハ長もゑゑて飛ぶ梅と長くこれのごく飛ぶのさ元
をもてさけて酒をへへーゝ又内の者指樂田樂等ひちとよ的
して出るものあらいたのもとゝ出てよつまるのゝ出て飛ぶと
ゝ酒をへ

式三献内者共出酌の事

一　式三献初献引てゝ二献うちゝ三献ゝてゝ小也肴者とゝ
肴三品極ゝ引てゝ常のあゝ酒肴ゝもうちゝ梅うちゝ
の若ゝもうゝ酒ゝてゝ小肴ゝ相伴者へ
引てゝ常ゝもうちゝ引てゝ常ゝ引てゝ
のゝもうゝ也又中へ引てゝ
てゝ引ゝ常ゝ引ゝ
行口とハ引ゝよくゝ
三献ゝ飛ぶ行口者也行口者

行口のてゝ常ゝ風ゝ
毎度の人へ酒ゝ
てゝ引ゝ常ゝ
外へ引ゝ
逆ゝ
馬尾ゝ
くゝ
嵐尾ハ
ゝ
きゝ
よゝ
飛ゝ
女の羽ゝ酒ゝ
ゝ
とも

時ゝ風ゝ行ゝ
毎度の人へ酒ゝ
ゝ常ゝ
ゝ常ゝ
ゝ常

公方様御成

御前

一 引さゝ

二 うちミ

三 ささゝ

前

御相伴衆御成

三 ささゝ

二 うちミ

一 引さゝ

前

二 うちミ

一 引さゝ

三 ささゝ

年人御成

本膳

二ノ膳

三ノ膳

右こゝ〻ゝ様小座下の家〻にて初ての也 右代吉い高家将軍家

乃座下人 大名流の新也 座下の流後よりうて始らるゝ

三ノ盃乃酌の事 付出陣帰陣乃酌乃事

一 三ノ盃てさいとをゝるゝ 一膳ゝゝりとをゝる色取中ゝ

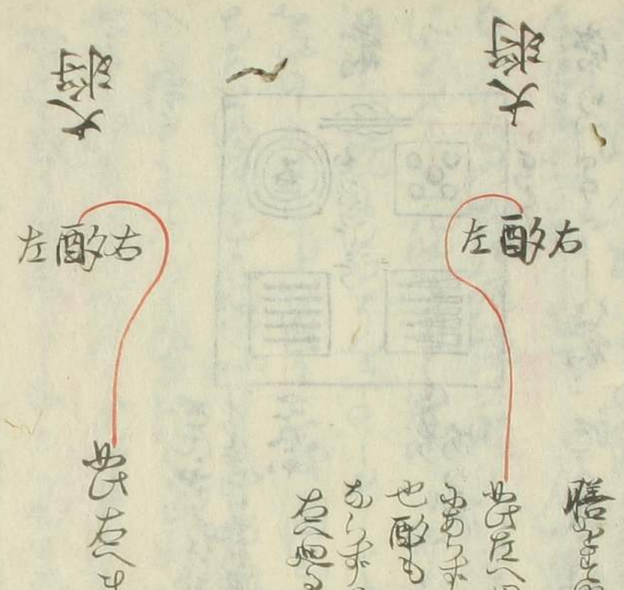
ても朝日常自其外 正月の時 高もゝ色ゝも 酌の仕様前のゝ

その一あハひらをのめしてと上の盃ニ三度酒を入る次ニ中の盃ニ
三度酒を入る次ニ下の盃ニ三度酒を入る扨合ニ三九度也前
屠蘇花の如し扨て入ひらけ物もつる入ひらけ出れとも如
出陣ハ陣たち〻序ハ軍たつまり〻序ハ軍たつまり〻凱陣ともニ
軍陣の時ハ出陣凱陣共ニ三つめ
の盃の時ニ酒を
そびそびて二度
水入て如ハ三ニ
てくるこつ如ハ
前ニ申ものびし
と酒を多入る
也如ハ三ニ時も
ちる時ハ也軍陣ニ
廻る也軍陣ニ
二つめの盃ニ加
へて第ちする
る知初服人ハ廻る也ハ
又ハ大将の着ニ
酒本ニ三盃

にてちてこん盃ニ出陣帰陣の時の引ちてこ
ハ出陣ハ帰陣ハ凱陣ともニ
ハ出陣ハ帰陣ハ凱陣ハ
ハ出陣ハ帰陣ハ凱陣ハ
ハ出陣ハ帰陣ハ凱陣ハ

軍陣の時四方拵左のこと

陣ぶれの宮仕人も四一廻り拵



世左へ廻る常の敵のことく拵そなへて廻り
ゆあらすまどつと立て世びたの方へ廻る
せ敵も四四と云とそれつくそひて廻るゆ
あらすまたへ廻るゆ道程へ伝こ左廻をこの世
左へ廻るゆとうそく道程へ伝こ右廻をいもん

世左へまつるゆいもん

一　碁の盤の事

碁の盤小碁もとくとこ屋なてこしてこの碁の盤ゆ必三寸四方にして草花をて色こ作り物こ
しゆ敵の人拵て寄時ハ内ゆ碁の盤ハ内ゆ碁の盤ハ内ゆ碁の盤

一　もと人の高盃にあまたしたがひて酒をすすめ出流
出流の時は盃いくつもかさねて一人に盃一つづつ呑て盃を盃う持てきたる人
呑こ呑て其盃をうけとりあきて退せ
あり　呑てる人は其出盃をおくて退
又云出流は出あることなけれども二ツもかさねてやりまくるといふ
也常的の人は其上盃をうけて出流る
時いつも酒あるとも各上ミをくゝる盃に出酒をうけられ盃をうけて
退きたるのせて出てゝ　もとの所に
頃義の人なる時別のうらけゝきこしめ
けをうけてゝ　の口の上ミをとゝ　元日の出
頃義　とゝ　のこそ其ちうふ
酒をうけ　東国義年中にて
酒をうけ　の人　酒をうけ　酒
又出流と云ふ盃とも云又盃のうらけとも
一　出流の時と出通りの時と
出通りの時は盃
酒をうけ
出流の時は盃
酒をうけ
呑て退
呑て退
呑て退

てちとせのあいだをあるいて出羽の国をたずねるに
行る人あり一日飛るをたて酒を入て数日をへる人のミ
そこて其土地を出羽の者ときて酒を出羽へ入てたのもし
おもてなしよのミなる人と酒一ツ酒をたてて
酒をみる也出羽の人ものミなる人と酒の通りとあけて
酒をのこ仕て一ツ信ずつ(うシ)むけやまとの国人出たちからけ
を出羽の者ときて退也其ちからけをたて出羽の人其ものの
もてなしを頂てうらけたて飛て居へ一

一ツ人の酒をたてのこ日の事

ちいさいとき(ちいさいとき)ものの(ものの)

一ツ人の酒をたてのこ日の時の事一
出羽をたて行る人の酒へ
酒をたてのこ日へ行りの時に
てたてこ者ものの酒へ行る人の者

出羽を行て出羽をさて出羽へ行る人出羽をたてのこ日の人
ものの酒を出羽をたて行る人の酒へ
者ものの酒へ行る人の者
ものの酒へ行る人の者
ものの酒へ行る人の者

ようて[illegible]人[illegible]也[illegible]ようて如[illegible]也[illegible]ふかく
るときは[illegible]ふ[illegible]也[illegible]の時は也酒[illegible]
也[illegible]の時[illegible]の時は酒[illegible]
面[illegible]の時[illegible]の[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

一

也[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひさげの人も也[illegible]
も[illegible]
[illegible]
人も[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

酒こぼしの口、左の方へ向て

右のものをひいつるのさま也

酒の出たる事

一 船の人も陸の人も等閑なる事也 船の人ふうふ行へ船を出合ゆく加へ船の人ふうふ行へ船を出合ゆく加へ船の方へふうふ行へ船を出合ゆく加へ船の方へふうふ行へ船を出合ゆく加へ船の方へ

[illegible]

足ハ何ともなき時の事なり

[illegible]

一、[illegible]

[illegible]

[illegible]

右
左
貴人へ
左
右

右
左
等皇家

一 傾城白粉ぬり紙子着

傾城白粉ぬりのことあるとき男の矢へ紙子着る
へ紙子を脱ぎ捨てて後ろ向きに後へからとたのもせい
ぬぎ方のつもりにて脱ぎ捨てて腰の方より出て長柄
の箒にて出へ傾城白粉ぬりの紙子着る物ことふ物のれ紙
なきぬぎ方とて又の脱ぎ方へこふらしつるもの
きぬ用なる脱ぎ者の右の腰より可ぬれる右の方へ紙つまりつ
たの方より可ぬるなる脱いりよとよくぬれて板障子あるくに
ゐ是にて脱ぎ捨へ一人ぬぎ方と心得へ如へとる時も腰より
かるへ

一 女房児ある流ぬる紙子着

女房児ある流ぬる紙子着ることこれ人の妻ならんと
ろへ思ふ流ぬる紙子着ることこれ紙子着ることこ

一　捉(ヒナゲ)こみ矢取渡事

一　弓を引る人とそで（袖）ある時渡こみ
ひさけのこと我方へ引て右のそで
ていらゝもぬきん出る渡りへ
て右のそでをあのおけて右の
て出る我右ゆ引ゆ
を通さよつき渡て下まるよ
ゆ通さよつき渡て
右きゝ人より矢を時ハ右の
おれのようてハ下ゆ
をうはけてつるとおれハ
ハ何とゝ右のようて矢を

右ゆれもつるを引て渡をけ
矢を人つるへをとをる時渡
人つ弱るゝをもをけて
つるを弱をつるをつけ
てつるを弱て渡をこハ

一 冬のてう酒のんとうんの事あらば飛るを左のつよりおるをうら飛
てゝゝ〜のゝゝゝ〜のゝゝゝ〜
るのゝゝゝ〜左のつよりあて〜飛るをうゝゝゝ〜この時はあ酒をと
かゝゝとゝゝ〜

鬼のミトハ毒のこと

鬼乃ゝミの事

一 酒を人ゝ進る時ゝゝゝ

鞠の庭にて汚穢の事

一 鞠の庭にて汚穢仕る時は形をうつしの事

[illegible]

乃ちも通らぬ物通りて通る事

[illegible]

ひざをぬくるのえにあらず毋のひざをぬくるもの

[illegible]

れ時は庭にてうまふとしてはめ[illegible]

[illegible]

をつぐ[illegible]

[illegible]

一 [illegible]人家の事

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]家の事

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

毎〻トハいつもあるゝゆへ
一　乱酒の時音曲の事
乱酒の時音曲の事毎〻この儀ハ酌ことに（なて）同〻くらゝゝ
ゝあるゝ事ハ也ゝてうゝあるゝ但主人の作ゝ
ハうゝ人ゝ有ゝ

主君所ゝの時亭ゝ出酌の事

一　主君所ゝの時亭ゝ酌ゝて出酒ゝ
りて何ゝ他但時ゝ出ゝゝ

主君他家ゝ出ゝの時亭ゝ主出酌ゝ出時の事

一　主君他家ゝ出ゝの時亭ゝ主人亭ゝ方の同苗元出酌ゝ立て我主
人ゝ酒ゝ
ゝりて
ゝ
ゝ
ゝ

出さけ取りさる事 足定法也

一 宴会の時酒を出す事

宴会の時酒を出すこと別の事酒を入て
其酒をすゝめ人々可為也足ハ風心の為也発のときもこと
こゝ〳〵れい何とゝ〳〵なる事也其人薄心なき也

一 いらけ取る事

大酒をいらけ酒をとゝ〳〵取る事人の前にて一本人の前
かく(角)の折敷いつもとゝ〳〵その新敷いらけ
とゝ取りてふるきいらけを前のまゝ置て
を(いらけの事)

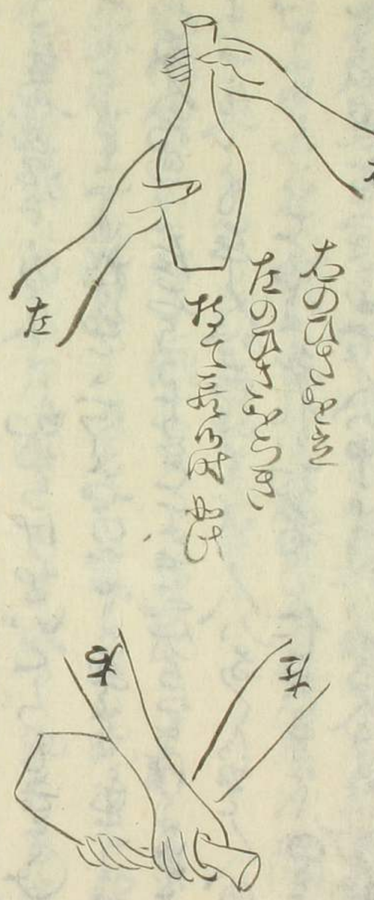
一 酒の時きとゝ〳〵る時いらけ

きとゝ〳〵ハ二番三番ハ酒ハ
きとゝ〳〵也足ハ三ツきとゝ〳〵ハ
の者とゝ〳〵ハ
ても何とゝ〳〵
こゝ也其次
おとゝ〳〵
ハ毎人
ても
けの中
と後近
時を

いらけ取る人の事

いらけ取る人ハ其人を尊敬する後也初献
ハ三ツ入ハ三ど入ハ三ど入ハ三ど

さてあとまたのゝまるて初まて一足と右のひさとをたのひさとをたて〻一羽のふこれしるをとをまくめてとらして酌をする人
ものをとる一ヨをまた初をとる初をるも お花茶のみ



右のひさとをとる
左のひさとをとる
なて三ヨの内ぬび

一 筒の酒の仕事

筒トハ毒ヨリ酒ノ事ヲ筒ノ事トハ毒ノ事ヲ

筒ハ腰ヨリ外ハ格ヨ者ヨをなて毒物也筒ヨて初をる格ハ口を

口ノ上ヨ毒トハ口ノ上ヨリとをぶとる紙ヨリてせんをとをぬくこと

筒をとら者のをとい筒の口の上ヨをとを寝てせんをぬくてせんぬくはせん

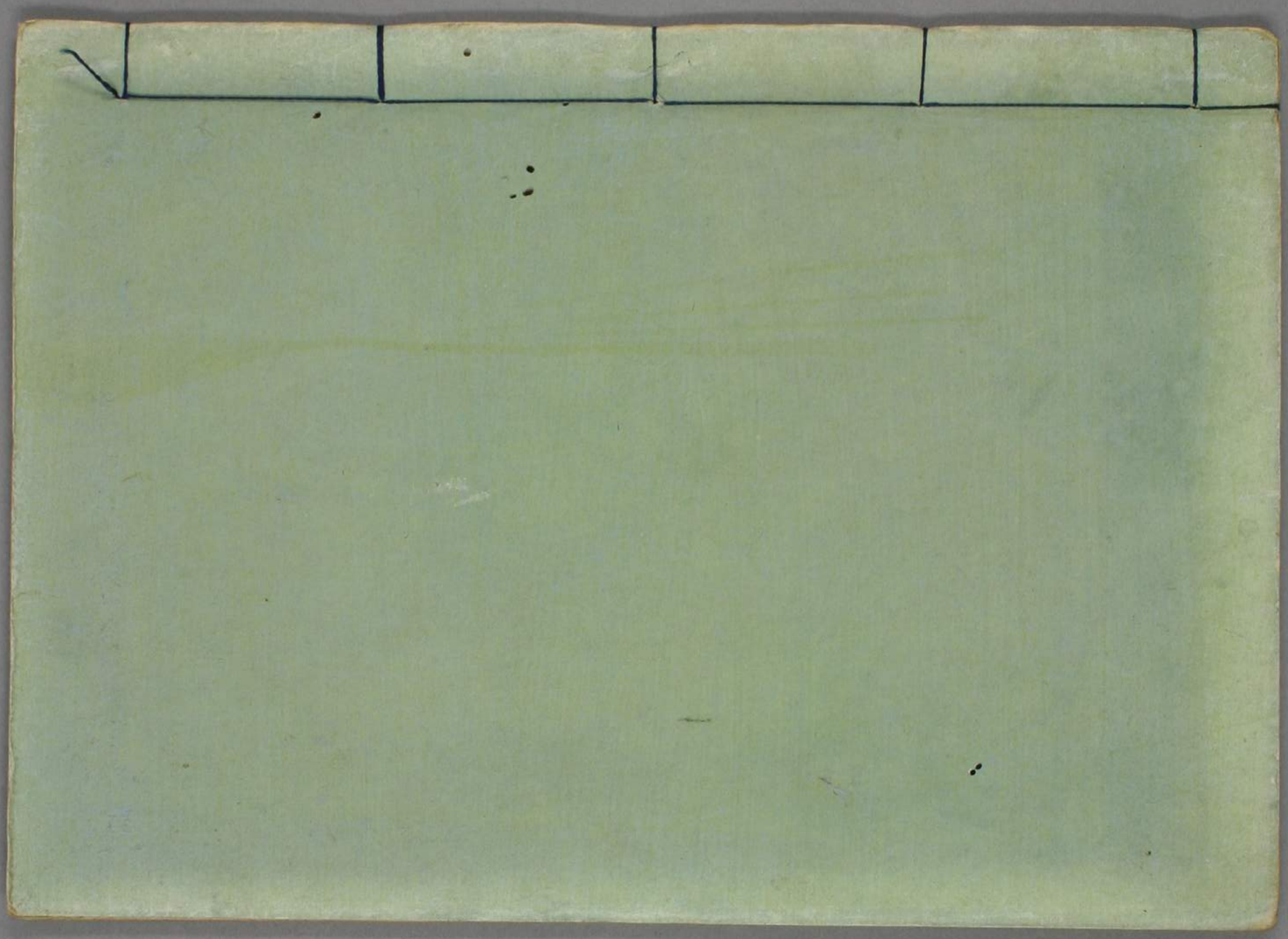
をとをつるヨをとをてぬくてをぬくてあらけるくぬけば酒こをる物也

こ酒をはつるて毒の仕れ羽の初ろこと一ろのヨて筒のを

おちたのヨてをるを初をる酌をしまる

文化八年辛未三月吉日写之

吉川元吉

天保五年　甲午二月八日写之

少納言藤原成之